

熊本県認定農業者連絡会議との意見交換会概要

日時：平成27年9月14日（月）

場所：旅亭 松屋本館 2階松風

平成27年9月14日に、熊本県認定農業者連絡会議理事と農地中間管理機構との意見交換会を開催しましたが、概要は以下のとおりです。

1 農業公社から農地中間管理事業の実施状況を説明

- ・ 昨年度実績
- ・ 今年度からの運用改善内容

2 意見交換（機構事業の活用推進の方法提案）

① A氏

- ・ 受け手にとっては良い事業と思うが、出し手には情報が伝わっていない。担い手に事業周知しながら、関心のない人にどう伝えるか。JAを通した事業推進が有効ではないか。JAの理事、農業委員、JA部会役員、JAの担当者にしっかりと理解させることが大切。
- ・ JA担当理事が、集積にしっかりした考えを持つことが大切。
- ・ 農地では貸す相手が誰かが気になるので難しい。

② B氏

- ・ 基盤整備と絡めて進めてはどうか。整備事業の際は、地区の農家が話し合いのうえ事業を進めていくので、話し合う機会がある。そういう場で、事業の必要性を説明するなどして、推進してはどうか。

③ C氏

- ・ WCSで8万もらえるため、地主は利用権を手放さない。この政策はいけないと思う。
- ・ 出し手を確保するため、小さな集落単位で説明してもらわなくてはいけない。

④ D氏

- ・ どの農地を借りるかは、地形や作物の特徴が関係してくる。
- ・ 私の営農地域では出し手が多いが、条件が良い農地は契約済み。
- ・ 樹園地は条件が悪く、整備しても費用対効果が上がらない。

⑤ E氏

- ・ 施設園芸なので中間管理の条件に合わない。30年は使い続けられる。

⑥ F氏

- ・ 他地区から入ってきている人は、共同作業も出てこないのが問題。
- ・ 山間地は借りる人も嫌になるのではないか。

⑦ G氏

- ・ WCSの8万円が集積を阻害している。

⑧ 佐藤事務局長

- ・ 農業委員会では1ha運動で農地の意向調査をしている。活用してもらいたい。

⑨ 公社

- ・ いろいろなご意見ありがとうございました。公社では、農業者の皆様に農地中間管理事業を大いに活用していただきたいと考えており、本日いただいた皆様のご意見を参考に事業の推進方法を考えていきます。
- ・ 本日は県内各地域のリーダーである皆様との意見交換会となりましたが、各地域単位の協議会でも意見交換会を積極的にしていきたいと考えています。そのような機会がありましたら是非ともお声をかけていただければと思います。
- ・ 今年度からは、機構の駐在員を各地域に配置していますので、事業に関するご相談も駐在員にお気軽にお尋ねいただければ幸いです。